様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１９６７９

研究課題名（和文）周産期医療・看護に付加価値を創造するMBA教育の蓄積を活用した経営学的検証

研究課題名（英文）Management study verification using accumulated MBA education to create added value in perinatal care and nursing.

研究代表者
齋藤　いずみ（SAITO, IZUMI）

神戸大学・保健学研究科・教授

研究者番号：１０１９５９７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,600,000円

研究成果の概要（和文）：産科医療は診療報酬とは別の仕組みであり、自由診療部分である。そのため、経営学的分析を詳細に実施されることはないまま現在まで経過した。2016年から神戸大学では、助産師の教育が大学院で開始された。助産管理学を経営学研究科の教授が一部、教育することが開始された。日本初の試みである。そこでこれまで分析されることのなかった、周産期分野の看護時間や、看護行為について客観的データに基づき、経営的分析を実施した。ＭＢＡコースの講義と連動した助産管理学は、データに立脚した分析が可能であり、その成果は、有効であることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、これまで分析されてこなかった周産期の医療や看護について、初めて本格的に、経営学的手法を用いて分析されたことである。また、MBAコースと助産師コースの教育が日本で初めて、合同で実施された意義は大きい。両者がお互いに、良い効果があることが、学生からのヒアリングで明らかになった。2022年、当該分野の代表的学会で、本研究の成果が公開され、多くの大学や助産師から、高い関心が寄せられた。今回は、分娩期の看護時間と看護行為を基に、助産師、医師、看護師の賃金を分析した。今後は、分娩期以外の分析に着手する予定である。

研究成果の概要（英文）：Obstetric care is a separate system from medical reimbursement and is an unrestricted part of the medical service. In 2016, Kobe University began to educate midwives at the graduate school. Midwifery management studies were started to be taught, in part, by professors of the Graduate School of Business Administration. This was the first attempt in Japan. The results of the analysis were confirmed to be valid, as midwifery management studies linked to MBA course lectures can be analyzed based on the data.

研究分野：maternal nursing　midwifery

キーワード：MBA　周産期　不可価値　医療　看護　データ　経営学　助産師

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景
これまで、産科医療は診療報酬とは別の自由診療部分であり、経営学的分析を詳細に実施されることはないままに経過した。2016 年から神戸大学では、助産管理学を経営学研究科の教授が一部、教育することとなり日本初の試みと言える。そこでこれまで分析されることのなかった
周産期分野の看護時間や、看護行為について客観的に分析しそのデータをもとに経営的分析を実施することが、データに基づく分析となると考えた。また、助産師コースの院生は、MBA コースの学生と一緒に講義を受けることとなった。そこで、どのような学びが創造されるのか明らかにすることは意義があると考えた。

２．研究の目的
研究目的　これまで経営学的にほとんど検証されてこなかった周産期医療・看護分野に焦点を当てる。産科単科・産科混合病棟において齋藤らが、産科の患者や産科以外の患者に、24 時間 2 週間助産師や看護師の実施した看護時間や看護行為数（2015 年採択基盤研究Ｂにおける成果）を活用し、実施されている医療・看護を可視化し、MBA 教育の企業研究で蓄積された知識を基に分析し、周産期医療・看護分野に新たな価値を創造し、不採算部門からの脱却を試みることを研究目的とする。また、2017 年から神戸大学では助産管理学の一部を経営学研究科の教授により講義を実施し、2018 年からは、ＭＢＡコースの講義を取り入れた助産管理学としたためその成果を検証することを二点目の研究目的とする。

３．研究の方法

１病院における分娩費用を質問紙にて全国調査する。
２全国の分娩取扱い病院の約 8 割近くが、産科混合病棟になっていることから、産科単科と産科混合病棟の両方からデータを収集する。特にこれまで強いネットワークが確立されている、関西地域にある産科単科病棟を持つ神戸大学医学部付属病院藤原由香看護部長、社会医療法人愛仁会高槻病院宮本典子看護部長、産科混合病棟を持つパナソニック健康保険組合 松下記念病院出井まち子看護部長、医療法人社団純心井田くるみ看護部長および、各病院の経理部門から、産科・産科混合病棟の看護の概要についてインタビュー調査を実施する。各病院の分娩費および、分娩に関連する費用一式に関するデータを収集する
３齋藤らの先行研究で明らかにした、産科患者および産科以外の患者の看護時間と看護行為数、各病院の産科および産科以外の患者に関連する実証データから、管理経営学の一研究分野であるマネジメントコントロールの技法を用いマネジメントコントロールが有効に周産期の分野で機能するか否かを実証する。
４上記からより効果的効率的な産科および産科混合病棟の運営方法を検証し導く
５ＭＢＡコースで学んだこれまでの修了生に質問紙及びインタビュー調査にてその成果と課題を明らかにする。
周産期医療・看護を経営学の研究手法での分析することはこれまでほとんど実施されていない。また助産学とＭＢＡ教育の協働は、世界的にもほぼ実施されておらず、国内では初めての試みであり、挑戦的萌芽研究としての意義が大きい。

４．研究成果
産科混合病棟における分娩時の看護時間とコスト
分娩に費やすコスト算出のための基礎資料

産科混合病棟の看護業務に大きく影響すると思われる分娩時の看護時間について、A 病院の産科混合病棟で実施された分娩の、規則的収縮が発来し入院から、胎盤娩出後 120 分後に自分の病室に移動するまでの、分娩第 1 期から分娩
第 4 期の看護時間をタイムスタディにて測定した。
本調査は，研究者らが産科混合病棟で実施した分娩期の看護時間 ・看護行為の実測調査をもとに，分娩のために入院した産婦と出生以後の新生児に助産師と看護師が提供する看護時間と看護行為を明らかにした。以下では、図表 5 の看護業務ごとの時間データの値を用いて、TDABC によるコスト計算の可能性を検討する。
本調査では，分娩目的の入院から分娩後 2 時間値の測定終了までを「分娩期」とする。

調査期間および調査施設
A 病院は，病床数 440 床，19 診療科をもつ総合病院 で，がん拠点病院・地域周産期母子医療センターに指定されている。分娩件数は年間約 400 件である。 調査対象は，A 病棟（産婦人科・外科その他の診療科混合病棟）において分娩期看護に関わった助産師・看護師および 2013 年 10 月 21 日から 11 月 3 日の 期間に分娩目的で入院し，正期産経腟分娩をした事例 とした。
看護体制 A 病棟の人員は助産師 15 名・看護師 17 名で，2 交代制勤務である。チームナーシング

制で助産師が産科・ 婦人科を，看護師が外科その他診療科患者を受け持 つ。調査期間の人員配置（平均）は，平日日勤が助産 師 8 名・看護師 4～5 名，休日日勤が助産師 4 名・看護師 5 名であった。夜勤は通常助産師 2 名・看護師 1 名 もしくは助産師 1 名・看護師 2 名である。
調査方法 調査員（助産師 15 名）が交替で，分娩期に産婦と新 生児に関与した全ての看護者の看護時間と看護行為を 1 分単位のタイムスタディ法によって測定した。1 分 間に 2 つ以上の看護行為が行われた場合は，主たる 1 つの看護行為のみを対象とした。調査員は 8 時間～12 時間を担当し 1 人で複数の看護者の観察・記録を行う ので，誤差を少なくするため 1 分単位の測定とした。
倫理的配慮 本研究は，研究協力施設の倫理委員会の承認を得て実施した。

結果
10 事例の経腟分娩の看護時間を測定した。事例による差は大きいが、平均すると 648 分となった。看護時間は最大 1140 分から最小 180 分であった。
産婦人科医師の時間は測定できていないため、入院から分娩まで 2 回診察し、分娩時の立会いと切開縫合をした場合と便宜的に考える。診察時間と電子カルテ記録オーダーを出すとして 1 回 15 分とする。分娩前の 15 分前に分娩室に到着し、切開縫合しその後電子カルテ記録オーダーを出すとして計 45 分とし、合計 75 分の関与とする。助産師は、全経過の平均 11 時間、間接看護師１人は分娩前後計２時間、新生児看護師は分娩後 2 時間、医師は 75 分と計算する。
図表 5-1- 1 から図表 5-1-4 に基けば、助産師、看護師、医師それぞれに関わる人件費に関するコストは、31,284 円、9,936 円、8,381 円の計 49,601 円となり、その他の費用を加えると、97,101 円となる。
この計算では、光熱費や建物の減価償却費等の設備費用、また、病院間接部門の費用等は含まれていないが、これらを加えるとトータルコストを見積もることが可能となる。
分娩一回当たりのトータルコスト＝助産師・看護師・医師人件費＋分娩関連機材費用＋材料費＋薬品費＋検査費＋その他（廃棄コスト）
他方、本調査期間に投入された労働時間を試算すると次の通りである。

平日日勤：助産師：８名、看護師：4.5 名
休日日勤：助産師：４名、看護師： 5 名
夜勤：助産師：1.5 名、看護師：1.5 名
２週間に投入された分娩に関わる助産師の投入時間は、10 分娩で平均的な分娩当たりの投入時間に基けば、110 時間、看護師は 40 時間の計 150 時間となる。他方この期間の総労働時間は、上述のシフトに基けば、2592 時間であり、相当入時間の利用度は 5.7%である。その他の時間は、他の患者へのケア、図表に見られるような様々な業務に充てられている（シフトに基づく総時間と図表 5-5 の総時間には乖離が見られることから、実態としては、シフト以上の労働力が投入されているか、データ収集において重複が生じている可能性がある）。
実投入時間に基けば、コストは 10 万円程度であり、分娩収入（50 万円程度）と比較すると利益が出る計算となるが、投入時間ベースの一回当たり人件費は、約 70 万円となることから、他の患者からの収益が見込めない場合は、大幅な赤字になっている可能性が高い。このため、分娩に関わらない部分のコストをどのように計算するかによって、分娩当たりの収益性は大きく異なってくる可能性がある。

助産師の時間当たりコスト
助産師の平均賃金
厚生労働省の令和 2 年度賃金構造基本統計調査によると、助産師の平均年収は、40 歳で約 570 万円。
平均年齢：40 歳
・勤続年数：9 年
・労働時間/月：159 時間/月（1,908 時間/年）
・超過労働：8 時間/月（96 時間/年）
年間総労働時間：2,004 時間
・月額給与：384,800 円
・年間賞与：1,081,900 円
・平均年収：5,699,500 円
時間当たりコスト（法定福利費等を除く）：2,844 円/時間　出典：厚生労働省「令和 2 年度 賃金構造基本統計調査」

看護師の時間当たりコスト
看護師の平均賃金
厚生労働省の令和 2 年度賃金構造基本統計調査によると、看護師の平均年収は 41.2 歳で約 492 万円
・平均年齢： 41.2 歳

・勤続年数： 8.9 年
・労働時間/月： 159 時間/月（1,908 時間/年）
・超過労働： 6 時間/月（72 時間/年）
年間総労働時間：1,980 時間
・月額給与： 338,400 円
・年間賞与： 857,500 円
・平均年収： 4,918,300 円
時間当たりコスト（法定福利費等を除く）：2,484 円/時間

医師の時間当たりコスト
医師の平均賃金
厚生労働省の令和 2 年度賃金構造基本統計調査によると、医師の平均年収は、45.5 歳で約 1,440 万円。
・平均年齢： 45.5 歳
・勤続年数： 7.1 年
・労働時間/月： 165 時間/月（1,980 時間/年）
・超過労働： 14 時間/月（168 時間/年）
年間総労働時間：2,148 時間
・月額給与： 1,102,300 円
・年間賞与： 1,175,600 円
・平均年収： 14,403,200 円
時間当たりコスト（法定福利費等を除く）：6,705 円/時間

その他費用
分娩に必要な医療材料・医薬品・使用機材のコスト
医療材料費分娩滅菌パック：15000 円
医薬品：10000 円
検査：10000 円
財務省諸料金規定に則って　減価償却 A 大学病院調査結果
分娩数と耐用年数から
A 社分娩台
A 社インファントウオーマー
A 社吸引機
器機合計約 5000 円/回
A 社分娩監視装置
A 社記録用紙
分娩監視装置：約 7000 円/回
胎盤など医療廃棄物：約 500 円/回
　合計：47,500 円

参考として、分娩費：日勤の分娩　深夜 2 割加算
上記の他の分娩時のコスト事例を示す。以下は特に実測値に基づいた計算内容ではない。一般社団法人関東連合産科婦人科学会誌オンラインジャーナルから、以下のデータを引用した。2005 年のデータであるが、入院から分娩室、新生児室、病棟その他の４部門で入院中にかかわった職種（医師、助産師、看護師、医事職員 8 職種がかかわった）として、3 病院の平均的なコストを出している。ここでは分娩時のコストでなく、入院中の滞在も含み食費も入れている。
入院から分娩後病室に移動するまでの平均は 14 時間（看護や治療時間ではなく病院に滞在した時間）。直接労務費 192612 円、直接経費 54800 円、間接経費 113938 円計 361350 円。直接労務費調整すると 299516 円合計 468254 円に、諸経費 10%とすると約 40 万円であった。安全性の確保質保証からは、医師・助産師の増員をして約 51 万の費用と算出していた。

正常分娩は、自由診療部分という事で、東大病院のホームページに公開されている分娩費を参考にもう一度分析する。入院料　２３６,９９０円、処置・手当料　１２９,７００円、その他　１８４,３５0 円などの、詳細に公開されてない部分がいわゆる自由診療部分で他の都道府県の分娩費との差の理由であろう。室料差額　１６７,５００円（個室）、麻酔時間が１０時間以内の場合１２万円１０時間超えの場合１５万円であった。公的な病院としては個室料金が高めの設定ではあるが、個室代金、麻酔分娩の費用は概ねこのような金額で全国的にも定められえていると思われる。入院費に食事など、看護基準などが入るとするとこれも一般的な費用と思われる。
処置手当量、その他が、詳細の内訳が公開されていない部分である。これらの合計と、個室代金、麻酔代金をひくと全国的な平均的な金額に近づく。無痛分娩を売りにしている病院の任期は予

約が取れないことからも、急速に日本でも広がっている。
実際には、公開されていない、処置手当料、その他料金、麻酔、個室の料金を除くと平成 28 年に国民健康保険組合から公開されていた分娩費用の内訳に近づく。
1998 年の齋藤の調査同様に、看護行為時間に関する分娩費への反映はされていない。分娩費は時間内、時間外、深夜という考え方で分類され、他に入院料、新生児介補料、その他、入院日数、個室、麻酔分娩の有無というような内訳で整理可能である。これも個室の使用率、麻酔分娩の割合が急上昇しているほか変更はない。
看護行為の時間や医療の質の担保に重要と思われる項目の時間や実施の有無は現行の分娩費には、反映されていない仕組みを改めて確認できた。今後は、医療の安全や質の担保部分が、医療費に反映される要素も必要と思われる。一方分娩費が次世代の子育て政策上から、これ以上高額になる事態は避ける必要がある。
看護行為項目を、分娩費に直接反映させるという形式ではなく、全体のケアの充実を、診療報酬ではない部分、つまり自由診療であるから当院の分娩費は、○○の充実により、他院より高額な○○円である。それでよい人は受診しなさいという方式が馴染むかもしれない。
時間情報の分析からコスト情報に転換することで、看護の現場にどのような影響を与えることができたのか。これについて前述のように、調査病棟の助産師の主任、調査者であった別の病院の師長経験者である者と、意見交換会議を開催した。
時間情報を単にコストに変換するだけでは、看護現場へのインパクトを評価することができないが、仮にこのコストへの評価をすることで現場どのようなインパクトを与えることができるのかについて議論した。

まず、語られた言葉は、実施している看護行為を自分以外の人に見える化、可視化することが、コストを考える第一歩となるという事は大きい意識改革になったという事であった。看護職、特に年配の看護職は、お金のことを語ることはよい事ではない、という教育の中で育ってきている。よって、看護師のプロとして、責任あるケアを実施し、特にブラックボックスとなる分娩時の看護行為をデータ化することは、同僚看護職や看護部長、患者、第 3 者に、看護の専門性を伝えることになる。それによって、看護の価値を公的に客観的に評価可能となる。
どういう行為がコストとして今後の分娩費として、反映させることができる可能性としては、医学的な分娩進行の安全性に寄与する内容、安楽にさせる看護行為、看護の質を向上させる行為などであろう。見えない、可視化できないものはどう評価するのか。
患者のベッドサイドの滞在時間、申し送り方式というよりも患者の刻一刻と変わるリアルな状況の情報の共有時間、医療安全のための確認回数、ダブル確認回数などが上がる。また安楽のための行為。記録は医療安全上必要であるが、患者からは、この時間が長くても特に自分の分娩にプラスの側面はない。
人事院総裁賞の個人部門受賞者であり、わが国において看護部門で初受賞した、元北海道大学医学部付属病院看護部長・元北海道看護協会長であった大田すみ子氏から以下の評価を得た。
これまで分娩時の看護行為を可視化されたデータはなかったが、看護のブラックボックスであった分娩時の看護の焦点を当て、可視化することによって、見えない看護行為を、社会的にみえる化した価値は大きく、看護の専門的職業である助産師、および産科病棟で実施される看護師の看護行為を客観的にコストに変換しうる大きい功績と講評いただいた。分娩時の看護の全体の看護のレベル向上にコスト化という点から貢献が大きいと評価された。

MBA コースと学んだ助産師コースの学生の、助産管理学に対する意欲は高く、2022 年 9 月の母性衛生学会で全国に向けて発信した交流集会における、神戸大学の助産管理学に対する関心は高かった。この流れを一層推進し、助産師の経営学的分析能力を高めることにより、今まで評価されにくかった、周産期医療や看護を、客観的に評価可能となり、付加価値をつけることができるものと思われる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Miki Nishikawa, Izumi Saito, Chifumi Otaki, Kayo Osawa, Shintaro Izumi	４．巻 9
２．論文標題 An analysis of the locations visited by night shift midwives and the duration spent in each while providing round-the-clock critical care to high-risk mothers in a maternity ward	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Journal of Nursing Science and Engineering	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Chifumi Otaki , Izumi Saito , Shintaro Izumi , Kayo Osawa	４．巻 7
２．論文標題 Analysis of day shift nurses’ and midwives' locations and durations using information communication equipment: A prospective observational study of a mixed obstetric ward with critical patients in Japan	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Nursing Science and Engineering	６．最初と最後の頁 130-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Otaki Chifumi , Saito Izumi , Izumi Shintaro , Osawa Kayo	４．巻 7
２．論文標題 Analysis of night-shift nurses’ locations and durations using information communication equipment: A prospective observational study of a mixed obstetric ward with severe patients in Japan Journal of Nursing Science and Engineering	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Nursing Science and Engineering	６．最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 齋藤いずみ	４．巻 60（1）
２．論文標題 データで示す産科混合病棟	５．発行年 2019年
３．雑誌名 母性衛生	６．最初と最後の頁 13-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 寺岡 歩，齋藤 いずみ	4．巻 -
2．論文標題 産科混合病棟で助産師と看護師が協働する分娩期の看護時間と看護行為	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本助産学会誌	6．最初と最後の頁 82-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3418/jjam.JJAM-2018-0025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Chifumi Otaki, Izumi Saito, Shintaro Izumi, Kayo Osawa	4．巻 7
2．論文標題 Analysis of night-shift nurses' locations and durations using information communication equipment: A prospective observational study of a mixed obstetric ward with severe patients in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Nursing Science and Engineering	6．最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24462/jnse.7.0_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Chifumi Otaki, Izumi Saito, Shintaro Izumi, Kayo Osawa	4．巻 In press
2．論文標題 Analysis of day shift nurses’ and midwives' locations and durations using information communication equipment: A prospective observational study of a mixed obstetric ward with critical patients in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Nursing Science and Engineering	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計21件（うち招待講演　3件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 齋藤いずみ
2．発表標題 看護のブラックボックスから、DXによりいきいきした看護の現場を映し出し付加価値を創造する
3．学会等名 第41回医療情報学連合大会（招待講演）
4．発表年 2021年

１．発表者名 齋藤いずみ,大澤佳代
２．発表標題 産科混合病棟における人員配置改革前後の、看護職の就業継続意向得点
３．学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 大滝千文,齋藤いずみ,和泉悦太郎
２．発表標題 重症患者を有する産科混合病棟の夜勤帯看護師の主観的忙しさと主観的疲労感の分析
３．学会等名 第9回看護理工学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 齋藤いずみ,大澤佳代
２．発表標題 産科混合病棟における実証データに基づく人員配置の変更と管理者交代は、看護職の就業継続意向得点（NWI-R）を上昇させたか
３．学会等名 第9回看護理工学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 西川美樹,齋藤いずみ,和泉悦太郎
２．発表標題 Mobile deviceを活用した総合周産期母子医療センターにおける看護行為測定の試みー夜勤帯シフトに着目してー
３．学会等名 第9回看護理工学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 齋藤いずみ,大澤佳代
２．発表標題 産科混合病棟における改革前後の、看護職の就業継続意向得点（NWI-R）の変化
３．学会等名 第62回日本母性衛生学会総会
４．発表年 2021年

１．発表者名 齋藤いずみ,大澤佳代,大滝千文,寺岡歩
２．発表標題 産科混合病棟における看護管理方法の変更前後における看護職員の職務満足度の変化
３．学会等名 第23回日本母性看護学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 大滝千文,齋藤いずみ
２．発表標題 統合周産期母子医療センターに勤務する褥婦担当助産師の業務内容の可視化
３．学会等名 第23回日本母性看護学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 齋藤いずみ
２．発表標題 産科混合病棟の現状とICTによる看護可視化に向けた取り組み
３．学会等名 電子情報通信学会 ヘルスケア・医療情報通信技術研究会（MICT）（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 大滝千文 ， 齋藤いずみ ， 和泉慎太郎 ， 岩佐由美 ， 西川美樹
２．発表標題 整形外科病棟に勤務する看護師と看護助手の滞在場所と滞在時間及び看護項目の可視化：夜勤帯の分析
３．学会等名 第８回看護理工学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 本岡夏子 ， 齋藤いずみ ， 大滝千文
２．発表標題 機器を用いた病棟看護師へのTime and Motion Study:文献レビュー
３．学会等名 第８回看護理工学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 西川美樹 ， 齋藤いずみ ， 大滝千文 ， 和泉慎太郎
２．発表標題 情報通信機器を活用した総合周産期母子医療センター 夜勤シフトにおける助産師の滞在場所と滞在時間の分析
３．学会等名 第８回看護理工学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 齋藤いずみ
２．発表標題 情報通信技術を活用した産科混合病棟の可視化
３．学会等名 第60回日本母性衛生学会総会・学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 齋藤いずみ
２．発表標題 「産科混合病棟」という存在 産婦人科医師および病院のトップ管理職の地位にある人と共に考える
３．学会等名 第60回日本母性衛生学会学術集会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 西川 美樹，齋藤 いずみ，大滝 千文，和泉 慎太郎
２．発表標題 総合周産期母子医療センターにおけるMMR（Mixed Method Research)を用いた看護の可視化に関する文献検討
３．学会等名 第7回看護理工学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大滝 千文，齋藤 いずみ，和泉 慎太郎，大澤 佳代
２．発表標題 情報通信機器を用いた産科混合病棟の夜勤帯看護の可視化
３．学会等名 第7回看護理工学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 齋藤 いずみ
２．発表標題 情報通信機器を活用した産科混合病棟の可視化 看護行為と看護時間による分析
３．学会等名 第２１回日本母性看護学会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 齋藤 いずみ，和泉 慎太郎，大澤 佳代，大滝 千文
２．発表標題 産科混合病棟における看護職の滞在場所と滞在時間
３．学会等名 第7回看護理工学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 齋藤 いずみ，和泉 慎太郎，大滝 千文
２．発表標題 工学と看護学の融合で可能になる「看護の可視化」情報通信技術を活用した看護時間・看護行為の測定
３．学会等名 第7回看護理工学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 齋藤 いずみ，大滝 千文，寺岡 歩，中井 かをり
２．発表標題 情報通信機器を活用した産科混合病棟における分娩時の助産師と看護師の協力体制の可視化 看護師の分娩室滞在時間を指標として
３．学会等名 第33回日本助産学会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 齋藤いずみ；大滝　千文；岩佐　由美
２．発表標題 情報通信機器を活用した産科混合病棟の可視化
３．学会等名 第6回看護理工学学会学術集会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計3件

1．著者名 齋藤 いずみ	4．発行年 2020年
2．出版社 放送大学教育振興会	5．総ページ数 368
3．書名 母性看護学-母性看護学の概要と最新の動向をわかりやすく解説-第3章わが国および諸外国における母子保健統計と法律	

1．著者名 齋藤 いずみ	4．発行年 2020年
2．出版社 放送大学教育振興会	5．総ページ数 368
3．書名 母性看護学－母性看護学の概要と最新の動向をわかりやすく解説-第12章わが国の地域母子保健行政と諸外国の周産期医療システム	

1．著者名 齋藤 いずみ	4．発行年 2020年
2．出版社 放送大学教育振興会	5．総ページ数 368
3．書名 母性看護学-母性看護学-の概要と最新の動向をわかりやすく解説-第15章周産期医療と看護に関する安全と質の保証-	

〔産業財産権〕

〔その他〕

周産期医療安全・安心研究会
http://perinatalcare.jp/
を開催し、研究成果を公開している

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	松尾　貴巳 (matsuo takami) (80316017)	神戸大学・経営学研究科・教授 (14501)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関